

授業科目名 ( 英文名 )	教育実習 (Teaching Practice II)	科目区分 対象学生	
単位数	5.00	開講年次・ 学期	4年次・前期
担当教員	竹内 和雄 尾崎 公子 井上 靖子 乾 美紀 山口 裕毅	所属	環境人間学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的：学校教員として必要な知識、技能、態度、心構えや実践的な指導力を習得するために、次の内容を実習する。</p> <p>到達目標：本講義の到達目標は、1) 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経ていられた成果等を笑殺するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解する、2) 生徒や学習環境に対して適正な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通じて教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する、3) 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を習得する、である。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 事前指導では教育実習に臨む心構え、注意事項を述べ、事後指導では実習体験の報告と反省を行う。</p> <p>授業計画 事前指導：実習開始に先立ち教育実習の心得、準備等についてオリエンテーションを行う。</p> <p>教育実習：実習を認められた学校（原則として中学校）において所定の期間実施する。</p> <p>事後指導：実習の成果について問題点の指摘、総括、事後への対応について反省会を催す。</p>		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	実習校での指導を参考にしつつ、教材研究のために積極的に文献を調べること。		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準 教員としての必要な知識、技能、態度、心構えや実践的な指導力を習得できたものに単位を授与する講義目的、到達目標に記載する能力の到達度に応じてSからCまでの成績を与える。</p> <p>成績評価の方法 実習先からの評価表（30%）、指導案及び教材（20%）、実習態度（20%）、自己評価表を含む実習レポート（30%）を基準として、受講態度（積極的な発言や質問等）を含めて総合的に評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	原則として事前指導は5月中旬頃、事後指導は7月初旬頃に行う。各キャンパスの掲示に注意すること。事前・事後指導を含めて単位が認定される。事前・事後指導の欠席者は、理由の如何を問わず単位の認定を行わない。		
実践的教育	学校現場における教員経験のある教員（芦田、竹内）が、教員としての必要な知識、技能、態度、心構えや実践的な指導力について指導する。		
備考	中学校1種教員免許（および高等学校1種教員免許）の取得を希望する者はこの科目		

を履修すること。  
本学の配布資料を参照してください。